

(1) 実践の概要

高齢化が進む牟礼町に住む高齢者を幸せにするために、福祉ボランティア団体や企業とも協働して自分たちに何ができるかを考え、地域に住む高齢者の心と体をケアケアする実践

(2) ここがキーポイント!! 「問いと見通し」と「振り返り」

- ★高齢者福祉の課題意識は『一日高齢者疑似体験』でより身近になる。(実践の具体①)
- ★子どもの思いと裏腹な『社会のリアルな反応のフィードバック』(本実践ではインタビュー活動)が子どもの「なぜ?」や「もっと〇〇したい!」につながる。(実践の具体③)

(3) 実践の具体

①年代別人ログラフの提示によって、牟礼町の高齢化の現状を理解するとともに、一日通して着用しての高齢者疑似体験を通して、日常の中に様々な困りごとがあることを掴み、単元の課題設定を行った。

牟礼町大町・原年代別人ログラフ

- ①平成21年
- ②平成26年
- ③平成31年
- ④令和4年
- ⑤年代別推移



3人に1人が高齢者。これからも増えていくのかな?

②地域の福祉ネットワーク会議の取り組み「お助け与一君」と協働で独り暮らしのお年寄りのケアケア活動に取り組んだ。草抜き・落ち葉拾い・歌のプレゼント・寄せ書きのプレゼントを行い、笑顔で喜ばれた。



プロの人の手本を見たからイメージをもてました。

気持ちも沈むなど、体の変化だけじゃなくて心の変化も感じました。



依頼のあった草抜きだけじゃなくて、歌と寄せ書きのプレゼントも喜ばれて嬉しかったです。



でも…

④デイケアサービスに通う高齢者と関わることを決めた後、事前の訪問交流や、ZOOMによる昼食後の交流を日常的に行った。そうして得た情報をもとに計画した一人一人へのケアケア活動によって、児童も利用者も事業者も満足の結果となった。



訪問交流で十分分からなかったことについてプロの人から話が聞けたので、計画の参考になったよ。

③後日インタビューに伺うと、「立ちっ放しでしんどかった」「(ハロウィンの)おばけの絵が不気味だった」と苦言をいただいた。その失敗を次のケアケアでクリアしてパワーアップしよう!という課題が立った。



ハロウィンの季節だったからこのデザインにしたけれど、おばけ=幽霊で不気味と思われると思わなかった。

ちぎり絵なら普段の通所活動でも取り組んでいるから、安心して楽しんでもらえたよ。よかったなあ。



次のケアケアでは「相手を知る」と「仲良くなる」ことを絶対クリアしよう!

